The Orchard, Clanage Road, Bristol BS3 2JX England. £39.50+£4 p & p; Can $90+$9; US $75+$8.

アメリカ沿岸と違って，カナダ大西洋沿岸では海藻フローラについて纏まった本が少なく，とくに本書が取り上げたノヴァスコチアの海藻については種の特徴を示す図を伴った書物はなかった．カナダNRCのInstitute for Marine Biosciencesに勤務し，永年この海域の海藻の分類，分布の研究に従事してきた著者等はノヴァスコチア付近で普通に見られる代表種を選び，特徴を記述するとともに，それを図示し，専門家でなくても種の同定が出来る様な本を数巻にわたって作ることを企画した．本書はその第一冊目で，扱われる分類群は紅藻類である．ノヴァスコチア付近では計約128種の紅藻が知られるが，記述される種は73で，見開きの左ページに解説文があり，右ページに特徴を示す全形図や顕微鏡写真図が掲載される．写真は黒白であるが，ポイントとなる諸特徴は良く撮られており，同定用には便利である．各種類の解説の他に，主な生活環の図と解説，分類表，属の検索，術語解説等が添えられる．第二巻は褐藻，続いて緑藻の刊行が予定されている．なお，掲載種の標本はすべてThe Herbarium of National Science Council (NRCC) に保管されてある由．

(千原光雄)

□Margulis L., McKhann H. I., and Olendzenski L.,ed.: **Illustrated Glossary of Protoctista** xliii+288 pp. 1992. Jones and Bartlett Publ., Boston. ¥10,500.

Margulis等は先に藻類，繊毛虫，有孔虫，胞子虫，卵菌，粘菌など，彼等がProtoctistaと呼ぶ下等真核生物の分類，形態，細胞構造，生殖，分布，系統，及び進化などについて最新の情報を盛った"Handbook of Protoctista" (1990) と題する900ページに及ぶ大著を世に問うたが，今回の本はその図解付き用語解説版である．Margulisによると"Protoctista"はスコットランドの生物学者John Hogg (1861) の造語で，動物でも植物でもないものに対する語であるという．しかし，この本で扱う生物群は，4界説のCopeland (1956) のProtoctistaから卵菌以外の真菌を除き，そして緑藻を含ませるものであり，5界説のWhittaker (1959) のProtistaが単細胞生物のみを含むのに対し，多細胞で組織をもつ生物も含むものである．Monera (Prokaryota), Fungi, Animalia及びPlantae以外のすべての生物ということになる．Protoctistaには，I鞭毛が無く，有性生殖を欠くグループ…根足類など5門 (Phylum)，II鞭毛は無く，有性生殖をもつグループ…細胞性粘菌，紅藻，接合藻など4門，III鞭毛はもつが，有性生殖を欠くグループ…クリプト藻，ユーグレナ藻，ハプト藻，ラビリンスラ菌など14門，IV鞭毛をもち，有性生殖をもつグループ…黄金色藻，硅藻，緑藻，卵菌，黄緑藻，褐藻など12門が所属する．執筆者は合計74名で，藻類関係で言えば，MelkonianやMoestrupなど第一線級の研究者達が名を連ねる．新造語もある．例えばundulipodiaで，これは真核生物のいわゆる9+2構造の鞭毛や繊毛を指す語で，従来のflagellaは細菌の鞭毛に限って用いている．

用語解説に続いて科や目の分類上の所属が記述され，最後に門，綱のそれぞれの特徴と分類表が添えられる．

(千原光雄)

□折目庸雄：**富里の植物** 私費出版．155pp. 1993. ¥3,000+送料¥340.

千葉県北総台地の中央部の富里町の植物を，定年退職した著者が4年をかけて調査した報告である．千葉県立中央博物館の大場達之氏をはじめ同館職員の指導をうけ，標本はすべて同館標本室に納められている．種子植物・シダ植物1306種類が，日付，産地名，標本番号，位置座標（1キロメッシュ）で記録されている．調査の実質の期間は丸二年だそうだが，短期間にこれだけの成果をあげるには，綿密な計画と精力的かつ几帳面な調査活動があったことが想像される．『「自然の変貌は確かである」とは言うものの，それは全く抽象的・観念的な表現に過ぎない．……「自然保護」「文化財を大切に」という声が大きい．……しかし声だけに留まっていたのでは永久に空念仏で，大切にもされなければ保護も果たせないだろう．たとえ年月がかかろうとも誰かが具体的な資料を

提示し，……はじめて保護の実が上がると考える.』と著者は記しているが，全く賛成である．地域の個人の意欲が，地域の博物館のよき協力によって立派に結実した好例である．大集団を募集して「貴重植物見学会」を催し，現場を踏み荒らし，絶滅のきっかけを作るよりはるかに有意義と思う．入手希望者は，千葉県立中央博物館ミュージアムショップ（TEL 043-265-3111内線308, FAX 043-266-2841）へ問い合わせられたい，送金先は千葉県立中央博物館友の会（東京 1-537050).　(金井弘夫)

□金井弘夫：**新日本地名索引 全3巻**（1. 五十音篇（24)＋2014 pp., 2. 漢字篇（上）(16)＋2634＋46 pp., 3. 漢字篇（下）(16)＋2588＋46 pp.）1993. アボック社出版局発行，丸善発売. ¥155,000（セット).

本書は現在発行されている国土地理院2万5千分の1地形図に含まれている全ての地名とその位置を緯度と経度で示した索引である．新日本地名索引という題名から本書が金井さんの前書日本地名索引の改訂版のような印象を受けるかもしれないが，それとは異なる全く新しい本である．旧書では20万分の1から約12万4千件の地名が拾い出され，金井式位置座標値で位置が示されていたが，今度の本では国土地理院発行の2万5千分の1地形図を元地図として，そこから新たに約38万5千件の地名を拾い出し，それら地名の位置を元地図の緯度と経度で示している．これによって今度の新日本地名索引は直接に位置が示されていることになり，大変に使いやすいものとなった．第1巻は全地名を五十音順に並べたもので，いわばふつうの索引篇であり，最も使い易い部分である．第2-3巻は漢字篇で漢字による索引．ここでは地名を構成する漢字どの一字からでも元の地名が引き出せる方式が採用されている．そのために，項目数が膨大になり，2巻を要している．しかしこの方法は非常に便利であり，著者のアイデアに感心させられる．

金井さんは1958年に原・金井の日本種子植物分布図集第1集を出版した．このとき既に2万5千分の1を基礎とした今回の形の地名索引の必要を実感していたのではないか．35年来の想いが実現したのではないかと私は思っている．本書は，前書もこの点では同様であるが，植物地理学のみならず，日本の地名に関係する全ての分野で利用できるものである（宅配業界でも利用されているという)．日本の文化に貢献する基本図書と評価しても過言ではないと思う．

本書が収録の対象とした元地図は現在発行されている2万5千分の1である．元地図に載っていない有名な植物採集地もある．また，変更された古い地名も少なくない．これらは当然のことであるが，本書では探し出せない．金井さんにもう一度頑張っていただいて，次の地名索引では古い地名を拾い出すことも目標にしてもらいたいものである．というのは，標本のラベルにはその標本が採集された時代の地名が書かれており，変更された地名，特に村や町などの古い行政区画の地名はこの本では拾えないものがあるためである．しかし，実際には字（あざ）の地名はあまり変わらないので，その点で補えることが多い．一方，収録されている地名が膨大であるだけに同名の異地が驚くほど多い．このため字の地名だけに頼ると思いがけない間違いが生ずる．この点に関して，本書の紹介とは少し離れるが，利用者が注意すべき点を述べたい．例を挙げる方が分かり易い．明治から昭和20年頃にかけての好採集地に埼玉県（武蔵国）の平林寺がある．これは新座市野火止の平林寺であるが，本書には，同じ埼玉県平林寺が岩槻市にあって，野火止にない．このように，元の2万5千にはない地名の同名の別地が同じ県内にあることもある．たまたま気付いた例であるが，ホモニムの地名に注意が必要である．

最後になったが，学問の基礎として誰もが本当に必要としながら，これまで作られなかった，このような基本的索引を作り上げた著者に敬意を表したい．　(大橋広好)